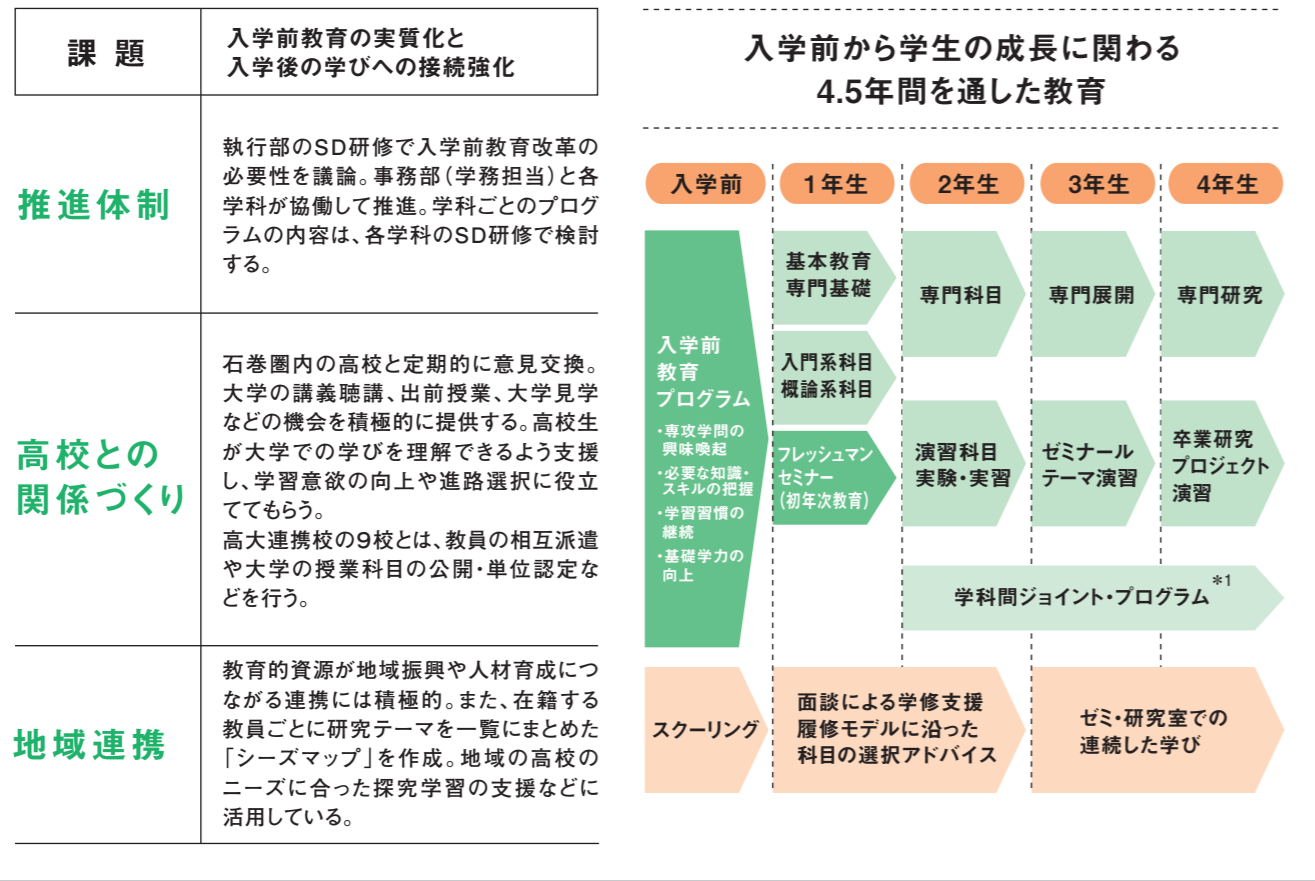




キャンパス／宮城県石巻市
学生数／1,416人
学部／理工、経営、人間
大学院／理工学、経営学

入学前教育でつながる高大接続の取り組み例

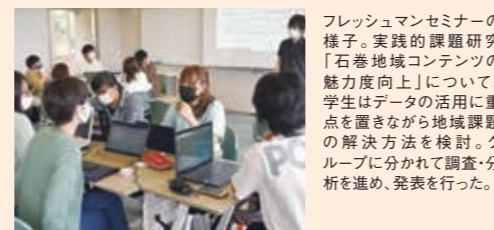


*1 他学科の科目群(8単位程度)を1つのユニットとして、自学科の履修モデルに組み入れ、異分野の知見を獲得する

注目! 学科の学びに生きる知識・スキルの習得をめざす「フレッシュマンセミナー」

石巻専修大学は、初年次に必修履修演習科目「フレッシュマンセミナー」を全学科で実施している。前・後期15コマずつの授業で、学生は大学の学びで必要となる基礎知識とスキルを身に付ける。2006年の開講当初は、大学生活になじむためのガイダンスの位置付けだったが、カリキュラムの改定を経て、各学科の学びに即した内容に変えていった。

例えば、情報マネジメント学科のフレッシュマンセミナーは、「大学へのアクセスの利便性向上」など、身近な課題解決をテーマに設定し、調査や分析、解決法の考察、レポート作成、プレゼンに取り組む。工藤学科主任は「この授業で身に付けた知識、培ったスキルは、2年次の情報マネジメントセミナー*2、3年次のゼミ活動でも生かせる。最終的には卒業研究につなげてもらいたい」と話す。フレッシュマンセミナーと情報マネジメントセミナーの活動は、半期ごとにルーブリックで評価して本人にフィードバック。節目節目で自分の成長と興味のあり方を把握し、ゼミ選択や研究テーマ設定につなげられるようにしている。



フレッシュマンセミナーの様子。実践的課題研究「石巻地域コンテンツの魅力向上」について、学生はデータの活用に着点を置きながら地域課題の解決方法を検討。グループに分かれて調査・分析を進め、発表を行った。

*2 専門教育科目(必修)。ゼミナールに所属する準備の位置付け

入学前教育プログラムから4.5年かけて学生の成長を後押し

石巻専修大学

CASE STUDY

入学前に学習意欲を醸成し、初年次教育にも接続する入学前教育を開始した石巻専修大学。新プログラムの狙いと、そこに込めた期待は何か。



経営学部情報マネジメント学科主任・教授

工藤 周平

くどうしゅうへい ●2009年東北大学経済学研究科経済経営学博士課程修了。秋田県立大学システム科学技術学部助教を経て、2015年石巻専修大学経営学部准教授。2022年度より現職。博士(経営学)。

初年次教育と接続する入学前教育へ

かつて、大学の入学前教育は、入学予定者に数学の教材を配布して取り組ませるだけの「学習のつなぎ」でしかありませんでした。目的も不明瞭で、効果検証も十分とは言えない。そこで、一教材ではなく、学生の成長につながる「プログラム」にしようと、2021年度に一部学科で、2022年度からは全学科で、入学予定者全員を対象にした入学前教育プログラムを展開しています。

新たな入学前教育の狙いは、4年間の学びの入り口として本学が重視している初年次教育とのスムーズな接続です。そのため、教材を各学科の学びへの準備にふさわしいものと見直しました。例えば、情報マネジメント学科の教材は、数学だけでなく、データ分

析や経営の知識も含めた内容にしています。

加えて、3月には、入学前オンラインスクーリングも実施。各学科の教員がカリキュラムの方針や学びの内容、高校卒業までに身に付けてほしい力を説明し、入学予定者に入学後の学びのイメージと入学前教育の教材に取り組み意義を理解してもらいます。

また、学生と教員との直接的なコミュニケーションを重視し、入学直後の個人面談を拡充しました。入学前の課題への取り組みの状況や採点結果等の個人データを、面談の参考資料として使用。学習面での困り事に対するサポートや科目履修のアドバイスに生かしています。

学生のデータは教員間で共有し、高校までの学習の理解度や傾向を把握するなど、初年次教育の授業改善の材料としても使っています。課題の提出状況を見れば、学習意欲が高まっているかが把握できます。そのため、グループワークの際に、学習意欲が高い学生とそうでない学生を組み合わせるなど、授業を活性化する工夫ができるようになりました。入学前から学生は大学の学びを知り、一方、教員は学生の状況を知ることが、円滑な接続の土台とも言えます。

退学者ゼロを実現し 高校からは高評価

教員と学生の相互理解を図った結果、先行導入した機械工学科情報マネジメント学科では退学者をゼロに抑えられています。入学前から学生と教員の接点を増やした結果、ミスマッチを起さし続けている学生のフォローが手厚くなったからだと思います。

単発の課題だった入学前教育を、入学後の教育につながるプログラムにしたことは、高校への広報にも好影響となっています。プログラムの方針や内容を告知資料にまとめて高校訪問で配布したところ、高校教員の評価も上々です。大学4年間ではなく、この入学前を含めた4・5年の教育でめざすのは、教育効果の向上です。入学前から集めた学生のデータを初年次教育に活用するだけでなく、その後の学修成果にまでつなげ、科目履修やゼミ選択のサポート、卒業研究の指導にまで生かしていきます。

ゆくゆくは学生が成長を振り返るポートフォリオの開発につなげたい。入学者が本学で自信を付けて社会に出てもらえるような、一連のしくみを構築しようと考えています。